

インターアクト部

～バリアはFreeに～



目次

- 1、インターアクトとは
- 2、パラリンピックの歴史について(文化祭展示)
- 3、競技の種類(文化祭展示)
- 4、物販
- 5、車椅子パラスポーツ体験

1, インターアクトとは

ロータリークラブにより提唱された、
12歳から18歳までの青少年または
高校生のための社会奉仕クラブ



品川女子学院インターアクト部

○活動日 土曜日



○活動内容 募金活動、老人ホーム訪問、保育園ボランティア、

ゴミ拾い等でのボランティア活動

例年夏には合宿を行っています

※今年度はコロナウイルスの影響で合宿は延期

今年度の活動

○ 交換ノート

今年度からドゥライフを利用されている方との交換ノートをはじめました。

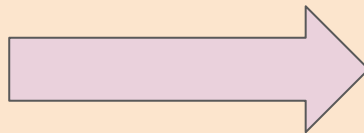
例年では年に一度ドゥライフに訪問し、直接交流をしていましたが、コロナ禍で直接の交流が難しくなってしまったため新しい繋がり方を模索しています。

○ ゴミ拾い

6月にローターアクトと北品川駅周辺のゴミ拾いを実施しました。

今年は東京オリンピック・パラリンピック開催ということで、
インターアクト部ではパラリンピックについての展示や体験も
行うことになりました。
一部ですが、展示内容をご覧ください。

let's go !



2, パラリンピックの歴史について

1948年

パラリンピックの起源は第二次世界大戦で負傷した兵士の治療と社会復帰を目的にストーク・マンデビル病院内で開かれた競技大会

1952年

オランダの参加を得て国際競技会へと発展

1960年

ローマ大会からオリンピック開催国と同じ場所で開催されるようになった

1988年

ソウル大会からオリンピック直後に行われるようになった

パラリンピックの名前の由来

・現在はギリシャ語のパラ = Para (沿う、平行)
+ Olympic (オリンピック) とし、もう一つのオリンピックとして解釈されている。

3, 競技の種類

今回は2種目をご紹介します。

ボッチャ



障がいの程度でクラス分けをして順位を競う。目標玉の白いボールに赤・青のそれぞれ6球ずつボールをいかに近づけられるかで勝敗を決める。誰しもがスポーツを楽しむことができるという障がい者スポーツの理念を体現しているため、近年では障がいの有無に関わらず、老若男女誰でも楽しむことができるスポーツとして注目されている。

シッティングバレー



視覚障がい者の競技として行われている。1チーム3人でアイシェードと呼ばれる目隠しを着用し、所定のエリアからボールを転がして相手ゴールを狙う。重さは1.25キロとバスケットボールの約2倍の重さで、中に鈴が入っているのが特徴。鈴の音や、選手の足音、チームメイトの掛け声などから頭の中で状況を映像化し、ボールの位置を把握する。そのため、試合中は審判が**Quiet please!**(お静かに)」とコールした後は声援を送ってはいけないという独特のルールがある。

4, 物販

例年開催！

宮城県女川の特産品を販売しています。

(写真2019年文化祭)

今年は牡蠣の水煮、鯨の和ヒージョ、彩金華さば、
たこのやわらか煮などを販売しています。



5, 車椅子パラスポーツ体験



今年は、東京パラリンピックが開催されました。

さまざまなパラスポーツを観戦して、感動しました。

そこで今回は、車椅子アーチェリーの体験を実施することにしました。感染症対策を十分行なった上で実施しています。



出典いらすとや

最後までご覧いただきありがとうございました